

第14回日本ファミリーホーム研究大会 岡山大会

一般社団法人 日本ファミリーホーム協議会
〒708-1212 岡山県津山市安井 16

助成事業の概要

第14回ファミリーホーム全国研究大会岡山大会

1. 目的

子どもたちの持つ「夢や希望」の実現に向けて、その歩みを応援し、共に歩いていくことは私たちにとって何物にも代えがたい喜びです。その喜びを分かち合い、子どもたちのよりよい成長を支援するためには、ファミリーホームが抱えているさまざまな問題についての考えを整理・向上をすることのみではなく、地域の社会資源との連携を深め、「子どもの最善の利益のために」及び「社会全体で子どもを育む」を理念とした「社会的養護」の役割を担う等の、新しい選択肢を作ることも求められております。

本大会では、大きく制度改革とニーズが変革する中で、ファミリーホーム関係者並びに社会福祉関係者が一堂に会して、現状や課題について研究・討議を行い、私たちがファミリーホームを志した意味を見つめなおし、新たな展開を目指して開催します。

2 期日

令和元年8月7日(水)～8日(木)

3 会場

ホテルグランヴィア岡山

4 主催

日本ファミリーホーム協議会 日本ファミリーホーム協議会中四国ブロック大会実行委員会

5 後援

厚生労働省 岡山県 岡山市(社福)全国社会福祉協議会 全国乳児福祉協議会 全国児童養護施設協議会 全国児童家庭支援センター協議会 全国自立援助ホーム協議会 全国里親会 岡山県里親会 岡山市里親会

6 参加者

日本ファミリーホーム養育者及び補助員並びに社会福祉関係者 約200人

7 日程

第1日目 8月7日(水)

①開会式 ②行政説明(厚生労働省)

③中央情勢報告(北川会長)

④基調講演

演題「社会的養護の方向性について」仮題

講演者 早稲田大学公共経営大学院教授 片山善博氏

8 分科会

◎第1分科会

【テーマ】「養育に良い環境について見つめなおそう」

ファミリーホームを志した意味を振り返りながら、子どもとの暮らしの中にある養育ベース「食を食べること」「感じること」「思いあうこと」等において、子どもが成長していく基底には何が必要なのだろうかについて、いろんな取り組みの実践を参考に語り合い深めていく分科会としたい。

◎第2分科会

【テーマ】『「ちょっと困っています」をみんなで考えよう!』

ファミリーホーム運営において、子どもの養育を中心に行う中での、ホーム内の大人の連携スキルアップの方法、他機関との連携等のさまざまな困りごとが解決されないままに日常に追われている今日について、いろんな取り組みによる実践を参考にし、よりよい方向性を見出すために、語り合う分科会としたい。

◎第3分科会

【シンポジウム】

「これからのファミリーホームの新たな展開について」ファミリーホームのこれまでを振り返り、新たな社会的養護の枠組みの中からこれからのファミリーホームについて検討し考える分科会とする。

事業の成果

制度改革とニーズが変革する中で、児童福祉施設関係者並びに地域関係者が一堂に会して、現状や課題について研究・討議を行い、私たちがファミリーホームを志した意味を見つめなおし、新たな展開を目指すことができることができた。

主に

・厚生労働省からの最新の情報、里親会等社会的養護の関係機関からの動向について正確な情報を得ることにより、ファミリーホームのニーズについて協議することができ、新たな共通認識が獲得することができた。

・参加者による成果や苦勞についての情報交換により、孤立化と偏った支援の予防と方向性が開けることよりのストレス解消につながり、相乗効果が期待できる。

基調講演により、発達障害についての正確な情報を得ることができ、支援のスキル向上に繋がった。

・里親、児童養護施設等の参加により、子どもの支援についての情報とつながりが増すことで、視野が広がり多様化かつ高機能化が期待できる。

成果の広報・公表

大会後協議会、協議会監修書籍「社会的養護とファミリーホーム」を作成し、日本ファミリーホーム協議会会員に配布及び大会後援の厚生労働省 岡山県 岡山市(社福)全国社会福祉協議会 全国乳児福祉協議会 全国児童養護施設協議会 全国児童家庭支援センター協議会 全国自立援助ホーム協議会 全国里親会 岡山県里親会 岡山市里親会等に広報した。

また、書籍「社会的養護とファミリーホーム」は一般書籍として公表している。

今後の展開

・施設の小規模化と施設機能の地域分散化による家庭的養護の推進、里親やファミリーホームへの委託を進めることによる家庭養護の推進、虐待を受けた子どもなどへの専門的ケアの充実、施設運営の質の向上、親子関係の再構築支援、自立支援の充実、子どもの権利擁護、社会的養護の地域化、人員配置の引上げなど、社会的養護の充実を図る取り組みが進められている。児童を家庭的な雰囲気の中で養育するファミリーホームは要保護児童受け入れとして期待されているので、養育者の資質の向上と一般への周知が必要であり、今後も継続して開催される予定。来年は沖縄県で開催。